

所沢市立山口中学校

環境目標：身近な所から取り組みを

～SDGsへの意識づくり～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

空気清浄機のフィルター清掃、エコキャップ回収、清掃ボランティアなど

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

教室内の電気やごみ箱など、生徒にとって身近な活動に力を入れることで、生徒自身が家庭や卒業後でも日常生活の中で「持続可能」な環境活動につなげる。

<主な教育効果：環境配慮の意識定着、環境保全への意欲増進>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

本校では、各教室の空気清浄機のフィルター清掃を、環境美化委員の生徒が定期的に清掃し、感染防止だけでなく、運転効率を良くし省エネにつなげている。移動教室の際の電気等を消すことも、生徒が自主的に行っている。

社会科の授業内では、九州地方のエコタウン事業などを調べる学習を通じ、温暖化防止や環境保全のためにどのような取り組みが行われているかを学んだ。自治体や企業の取り組み、ごみの分別の大切さなどを学び、普段の生活への意識づけとなった。

2 《みどり・生物多様性》

家庭科部では、今年度きゅうりやゴーヤで緑のカーテンを作った。他にも学校ファームを活用し、ジャガイモなどの栽培から収穫、調理まで様々な取り組みを行っている。

校庭の小さな池では、理科の教員を中心に山口中周辺と同様の昔ながらの環境を作っている。昼休みや登下校の際には、興味深く池の中をのぞき、メダカやヤゴなどの生物を観察している生徒が見られる。

本校では、地域の方々との交流やPTA活動も

活発に行われている。PTAの方々を中心に、校舎脇の花壇に季節ごとの花を植えたり、愛校会本部役員の毎年の恒例行事として、サツマイモの栽培と、秋の収穫・保護者への販売が行われた。また、コロナで生徒の参加が見送られてきた、荒幡富士清掃ボランティアが再開され、約60人の生徒が参加した。地域の和の象徴である荒幡富士の清掃活動を通して、多くの生徒が地域の大人たちと、楽しみながら環境保全のための活動を体験することができた。

3 《資源循環》

福祉委員会では、4月当初キャップ回収8万個という目標を立てた。委員会の生徒を中心に、多くの生徒が家庭のキャップを持ち寄り、身近な所からの取り組みを実践している。また制服リサイクルも積極的に活用されている。

